令和3年度（2021年度）八王子市立中学校・義務教育学校（後期課程）使用教科用図書調査研究報告書（選定資料作成委員会）

種目　道徳　（1／1枚目）

調査の観点＼発行者名	東京書籍	教育出版	光村図書出版	日本文教出版	学研教育みらい	廣済堂あかつき	日本教科書
1　内容 （1）学習指導要領に示された目標及び内容の押さえ方に対して配慮しているか。 （2）生徒の発達段階に対して配慮しているか。	(1)目標及び内容の押さえ方 「いじめ問題」や「命の大切さ」など現代的な課題への対応が充実している。学年ごとに13の重点項目を設定。3学年とも「生命の尊さ」を4時間ずつ扱い重点化。 (2)発達段階への配慮 第1学年では小学校との接続に工夫がなされている。また、中学校3年間で段階的に広がっていくように工夫がなされている。1年間の見通しと道徳科の学び方の詳しい説明が最初に示されている。第3学年で生命倫理や児童労働問題に関する教材を設定している。	(1)目標及び内容の押さえ方 「いじめ問題」や「生命の尊さ」、「差別問題」など現代的な課題への対応が充実している。第1学年の「郷土愛」と第3学年の「社会参画」を4時間ずつ扱い重点化。 (2)発達段階への配慮 第1学年では小学校との接続に工夫がなされている。また、第3学年では社会との関わりについて考えを深めさせる工夫がなされている。1年間の見通しと道徳科の学びの流れを最初に示している。学年に応じて文章量が多くなるなど発達段階に配慮している。	(1)目標及び内容の押さえ方 「生命尊重」や「いじめ問題」など現代的な課題への対応が充実している。全学年「生命の尊さ」に3時間ずつ配当。 (2)発達段階への配慮 1年間の見通しと道徳科の学びのポイントを最初に示している。小学校で使用される道徳教材を各学年1つずつ取り入れている。第1学年「思いやり、感謝」の内容項目で「橋の上のおおかみ」、第2学年「友情、信頼」の内容項目で「泣いた赤おに」、第3学年「自主、自立、自由と責任」の内容項目で「手品師」。	(1)目標及び内容の押さえ方 「いじめの未然防止」や「安全の確保」など現代的な課題への対応が充実している。「いじめと向き合う」と「よりよい社会と私たち」をユニット化している。全学年「生命の尊さ」に3時間ずつ配当。 (2)発達段階への配慮 1年間の見通しと道徳科の学びの詳しい説明を最初に示している。各学年の テーマを設定している。第1学年「であう」、第2学年「みつめる」、第3学年「ひらく」。第3学年では高校の「公共」への接続を意識したコラムを掲載している。	(1)目標及び内容の押さえ方 「いのちの大切さ」など現代的な課題への対応が充実している。全学年「生命の尊さ」に3時間ずつ配当。 (2)発達段階への配慮 1年間の見通しを最初に示している。第1学年「みんなと生きる」、第2学年「社会に生きる」、第3学年「世界で生きる」という学年のテーマを設定している。「二人の弟子」など難解な教材は第3学年で扱っている。	(1)目標及び内容の押さえ方 全学年「自主、自律」「思いやり」「生命の尊さ」「生きる喜び」に3時間ずつ配当しているのが特徴的。現代的な課題への対応が充実している。 (2)発達段階への配慮 第1学年の文字サイズを大きくしている。巻頭の「自分を見つめよう」で道徳科の時間の説明をしている。「二人の弟子」など難解な教材は第3学年で扱っている。	(1)目標及び内容の押さえ方 「人間尊重の精神」や「いじめ防止」など現代的な課題への対応が充実している。全学年「友情、信頼」に3時間ずつ配当。 (2)発達段階への配慮 「道徳科って何を学ぶの？」というページがあり、説明を最初に示している。「寛容」に関して、第1学年で「二つの足跡」、第2学年で「あなたが見えているもの」、第3学年で「礼儀はなぜ必要なのか」と積み重ねられるようにしている。
2　構成上の工夫 （1）重点調査項目 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け配慮しているか。 （2）構成・分量等、生徒の発達段階を十分に配慮しているか。	(1)「主体的・対話的で深い学び」の実現 巻頭に基本的な授業の流れを示している。案内役キャラクターを要所に配置し、興味・関心を引き出すようにしてある。 (2)構成、分量等 各学年38時間分の教材があり、柔軟に指導できる。AB判で大きい。第1学年196ページ、第2・3学年各204ページ。各学年、漫画教材等を取り入れ、分かりやすいように配慮している。大きい写真が多い。新作21教材。前文の工夫としてあらすじや登場人物の紹介を載せている。視点マークが付けられていて、内容項目4つの視点のどこに該当するか一目で分かるようになっている。	(1)「主体的・対話的で深い学び」の実現 教材のはじめに発問が書いてあり生徒が考えながら本文を読むことができる。巻頭にテーマ別に教材をまとめて示した一覧を掲載している。巻末に生徒がなりたい自分を記入し、教員や家庭からのメッセージを書けるようになっている。 (2)構成、分量等 各学年本教材30＋補助教材5の35教材で構成している。第1学年の前半の教材本文は、他の教材より大きい文字を使用している。漫画、写真、グラフ、地図等、多様な教材を用いている。B5判で扱いやすい。第1学年218ページ、第2・3学年各202ページ。新作5教材。表紙の絵が変わった。	(1)「主体的・対話的で深い学び」の実現 学校生活の実態とそれに伴う生徒の成長を考慮して、シーズンに分けている。教材の中に引き込まれてるような内容。自分と重なるような考えたくなる教材。 (2)構成、分量等 各学年31教材＋付録4教材の35教材で構成している。絵や写真を多く使用している。B5判で扱いやすい。第1学年197ページ、第2・3学年各205ページ。新作20教材。各学年、生徒の成長を考慮して4つのシーズンに分けて構成しており、1年間の学校生活の流れを意識して構成している。各教材末に「学びのテーマ」が設けられ、1時間の振り返りができるようになっている。切り取り線があるため、提出させることもできる。	(1)「主体的・対話的で深い学び」の実現 問題解決的な学習を設定するなどの配慮をしている。「プラットホーム」を活用することで、より深く考えることができる。「考えてみよう」や「自分に＋1」という発問や「学習の進め方」を示している。 (2)構成、分量等 各学年とも35時間分の教材がある。B5判で扱いやすい。各学年とも本冊198ページ＋別冊42ページの240ページ。本冊と別冊の順番を同じにしてある。第1学年では新作9教材。参考の欄は教材の内容理解を助けるコラムになっている。各学年大きな10テーマに分類。	(1)「主体的・対話的で深い学び」の実現 SDGs、情報モラル、いのち、いじめ防止、防災など現代課題を扱った教材がある。タイトルの下にキーフレーズや考えるヒントなどが記載されており、主体的に考えを議論できるようになっている。 (2)構成、分量等 各学年35時間分の教材を用意している。全体的に余白が多くあり、読みやすくなっている。AB判で絵や写真が大きい。第1学年186ページ、第2・3学年各198ページ。新作16教材。学年の始まりに「マイプロフィール」で目標を掲げ、学年末に「心の四季」で1年間を振り返ることができる。	(1)「主体的・対話的で深い学び」の実現 主題名を省くことで、生徒が主体的に道徳的価値に向き合うよう工夫されている。「考える・話し合う」という箇所を設定し、主体的な学習を促すようにしてある。 (2)構成、分量等 各学年35の教材と別冊の「道徳ノート」があるので配当時間の授業を行うには十分である。第1学年の文字サイズが第2学年、第3学年に比べ大きい。AB判で大きい。別冊は全学年52ページで、本冊と合わせて第1学年は238ページ、第2学年は222ページ。第3学年は218ページ。新作1教材。	(1)「主体的・対話的で深い学び」の実現 子供たちが考え、議論できる教材が多く、自分の意見やお互いの意見から道徳的価値を深められる内容になっている。 (2)構成、分量等 学習指導要領の内容の順番に従って教材を配置している。37時間分の教材がある。写真や図、グラフが数多く盛り込まれている。B5判で扱いやすい。各学年とも194ページ。「私の道徳」というページがあり、生徒が興味を抱けるように工夫されている。各学年ともコラムを用いて、深い学びを実践することができる。新作1教材。
3　情報活用能力の育成に関する配慮をしているか。 （1）生徒の情報活用能力を育む構成となっているか。 （2）生徒一人一人がコンピュータを活用できる工夫がされているか。	(1)情報モラルに関する取扱い 第1学年で1教材、第2学年で2教材、第3学年で3教材で扱っている。著作権(動画アップロード)、歩きスマホ等についてのコラムを掲載している。 (2)コンピュータ活用の工夫 デジタルコンテンツは、第1学年で10教材、第2学年で9教材、第3学年で16教材。裏表紙のQRコードからアクセスすることができる。作中の人物のインタビューや関連動画などの教材の内容や時代背景を深めることができるものや他教科の内容と関連したホームページの紹介がある。	(1)情報モラルに関する取扱い 第1学年で2教材、第2学年で2教材、第3学年で1教材で扱っている。SNSの使い方(SNSの危険性や使用上の注意等)やインターネットへの書き込みについてどう考えるかを話し合う内容の教材が収録されている。 (2)コンピュータ活用の工夫 デジタルコンテンツは、第1学年で13教材、第2学年で17教材、第3学年で13教材。目次のQRコードからアクセスすることができる。教材の内容や時代背景を深めるため、様々なホームページや関連動画等にリンクしている。また、学びのリンクで、学習に役立つ情報は、ウエブサイトで見ることができるようになっている。	(1)情報モラルに関する取扱い 第1学年で2教材、第2学年で3教材、第3学年で1教材で扱っている。スマホトラブル、インターネット依存、著作権についてのコラムと話合い活動を掲載している。 (2)コンピュータ活用の工夫 デジタルコンテンツは、第1学年に21教材、第2学年に18教材、第3学年に21教材。各教材タイトル下部にあるQRコードからアクセスすることができる。朗読、関連動画や資料などにリンクしており、教材の内容や時代背景を深めることができる。また、デジタルコンテンツは、書いたり、消したり、保存したりできるので、考えていく過程を大事にしていくことができる。	(1)情報モラルに関する取扱い 第1学年で2教材、第2学年で3教材、第3学年で1教材で扱っている。著作権法、インターネットの情報発信、ネットとの関わり方、コミュニケーションの留意点(言葉の選び方、人を攻撃すること)等のコラムが充実している。 (2)コンピュータ活用の工夫 全学年5つの教材に対してデジタルコンテンツが作成されており、目次のQRコードからアクセスすることができる。教材の内容や時代背景を深めるための関連動画や画像、導入等に生かせるクイズなどを見ることができる。1つの教材に対して、複数のコンテンツを用意しているものもある。	(1)情報モラルに関する取扱い 第1学年で2教材、第2学年で2教材、第3学年で2教材で扱っている。SNSの使い方、インターネット依存、スマートフォン使用時のマナーについてのコラムや話合い活動を掲載している。 (2)コンピュータ活用の工夫 デジタルコンテンツは、第1学年で5教材、第2学年で5教材、第3学年で4教材。目次のQRコードからアクセスすることができる。関連画像や音楽など、各教材の導入に見たり聞いたりするとイメージが膨らむような内容のものが多い。	(1)情報モラルに関する取扱い 第1学年で2教材、第2学年で2教材、第3学年で1教材で扱っている。インターネットとの関わり方についてのコラム「情報機器によるコミュニケーションを考える」を通して3年間一貫した内容がある。 (2)コンピュータ活用の工夫 デジタルコンテンツは、第1学年で8教材、第2学年で9教材、第3学年で12教材。目次のQRコードからアクセスすることができる。関連動画、外部のホームページなどにリンクしており、多様な視点から教材の内容を深めることができる。	(1)情報モラルに関する取扱い 第1学年で1教材、第2学年で2教材、第3学年で1教材で扱っている。自分ごととして話し合うことができるよう「ネット将棋」や「言葉の向こうに」などを掲載している。 (2)コンピュータ活用の工夫 生徒がアクセスできるデジタルコンテンツやQRコードを特別には設定していない。「もっと知りたい」というコラムで「SNSで広がったボランティア活動」を収録している。パソコンやスマホが登場する教材は扱っている。
4　使用上の便宜 （1）教員にとって、使いやすくするための配慮がされているか。 （2）生徒にとって、読みやすい表現であるか。 （3）地域性に対して配慮しているか。	(1)指導者の使いやすさ 目次の後、P. 8、9の「一年間で学ぶこと」にねらいの整理があり、見やすく分かりやすい。「生命尊重」と「いじめ」についてユニット化し、多面的・多角的に考えさせることができる。 (2)生徒にとっての読みやすさ 1年間で学ぶことが1～28に分類されていて見やすい。学期ごとに振り返りページがあり、整理しやすい。「考えよう」「自分を見つめよう」という発問がある。「つぶやき」を書き込める所がある。 (3)地域性への配慮 郷土資料として郷土の学習に役立つ付録が付いている。自分の地域に関わる人物や伝統・文化、技術や産業等に関心をもてるよう配慮している。	(1)指導者の使いやすさ 目次の後のテーマが写真や絵付きで生徒にとっかかりやすく、テーマにそった授業を展開しやすい。教材名の下に「導入の発問」があり、生徒に発問を意識させながら教材を読ませることができる。 (2)生徒にとっての読みやすさ 言葉の説明が文章の下に多く、分かりやすい。挿絵が生徒の生き生きした姿で、温かい。第1学年用の教科書の前半の文字が大きく分かりやすい。 (3)地域性への配慮 各学年で「地域と自分との関わり」について考える教材を掲載し、家庭や地域社会の一員として、その役割と責任の自覚を深めることができるように工夫している。八王子市出身の肥沼信次を第2学年で扱っている。	(1)指導者の使いやすさ 目次に「シーズン1～3への流れ」が説明されていて分かりやすい。「考えよう→見方を変えて→つなげよう」が示され授業を展開しやすい。 (2)生徒にとっての読みやすさ 挿絵が生徒に受け入れられやすい。言葉の説明が文章の下ではなく左側にあり、考える時間が自然と与えられる。読み物教材の内容を実生活へとつなげるきっかけを与えやすい。巻末に、学びの記録を書くページがあり整理しやすい。 (3)地域性への配慮 全学年の巻末付録には、日本各地の伝統文化や世界遺産、先人の偉業が紹介されており、自分の地域のよさを見付けようとする工夫が見られる。	(1)指導者の使いやすさ 別冊「道徳ノート」をワークシートとして活用できる。提出させやすく保管もしやすい。各自の記載を評価資料にすることができる。 (2)生徒にとっての読みやすさ 生き生きした表情の中学生が挿絵に使われている。P. 4、5のテーマに挿絵や写真が使われていてイメージしやすい。言葉の説明が文章の下にあり分かりやすい。学習を深めるヒントのページがあり、読み物教材の内容を自分自身に置き換えやすい。 (3)地域性への配慮 全国各地の題材が教材、コラム化されている。地域教材の活用や開発にも配慮されている。生徒が自分たちの地域に興味がもてるようにしている。	(1)指導者の使いやすさ 「深めよう」というページが設けられていて使いやすい。題名の下の言葉で、読む前に生徒の興味を引くことができる。 (2)生徒にとっての読みやすさ 挿絵がとても大きく生き生きしていて美しく生徒に受け入れられやすい。言葉の説明が文章の下にあり、分かりやすい。巻頭にマイプロフィールページ、巻末に学びの記録ページがあり整理しやすい。 (3)地域性への配慮 家庭生活や地域社会に関わりのある教材を多数取り上げ、家族や地域社会の一員としての役割と責任の自覚を深められるようにしている。	(1)指導者の使いやすさ 「学習の手がかり→考えを広げる・深める」のコーナーがあり、授業の流れをつかみやすい。別冊の各自の学習の記載を評価資料にすることができる。 (2)生徒にとっての読みやすさ 言葉の説明が文章の下に多く分かりやすい。第1学年の文字サイズが第2・3学年に比べ大きく見やすい。別冊に教材ごとの学習の記録ページがあり整理しやすい。 (3)地域性への配慮 国や郷土の伝統文化への関心を高めるために物語教材だけでなく詩(歌詞)やエッセイ、漫画や新聞記事をもとに考える教材等があり、生徒が主体的に考えられるよう工夫をしている。	(1)指導者の使いやすさ 「もっと知りたい」というページがあり、広げて考えさせることができる。現代的な教材を多く取り入れている。 (2)生徒にとっての読みやすさ 生徒に受け入れられやすい挿絵が多い。言葉の説明が文章の下にあり分かりやすい。〔書いてみよう〕〔話してみよう〕〔もっと知りたい〕コーナーがあり分かりやすい。巻末に、1年間の心の成長を振り返るページがある。 (3)地域性への配慮 全国各地の様々な地域についてのコラムや写真を多く掲載し、自分の地域に興味・関心がもてるようにしている。日本海側の地域の扱いが多めである。
5　その他	(1)スマートフォンやSNSの取扱い 「友情、信頼」の内容項目で3年間一貫して情報モラルについて考える教材を取り上げている。さらに、第3学年では親点「節度、節制」の内容項目でも取り上げている。 (2)SDGs（持続可能な開発目標）の取扱い 「キャリア教育」「自然・環境」「健康・安全・防災」「国際理解」などをテーマとし、SDGsを意識した構成になっている。 (3)オリンピック・パラリンピックの取扱い 第1学年「希望と勇気、克己と強い意志」パラ陸上村上清加選手、第2学年「節度、節制」水泳荻野公介選手、第3学年「友情、信頼」スピードスケート小平奈緒選手と李相花選手を取り上げている。 (4)いじめの取扱い ユニット「いじめのない世界へ」を設定し、各ユニットは「私のせいじゃない」等3教材で構成され、多面的・多角的に考えることができるようになっている。 (5)別冊、付録等 各学年巻末に心情の割合を示す心情円やホワイトボード用紙が付いている。学期ごとに記入する「自分の学びをふり返ろう」というページがあり切り取ることもできる。	(1)スマートフォンやSNSの取扱い 第1学年は「遵法精神、公徳心」、第2・3学年は「節度、節制」の内容項目で、3年間通して情報モラルについて考える教材を取り上げている。 (2)SDGs（持続可能な開発目標）の取扱い 「キャリア教育・社会参画」「自然・環境」「安全・防災」「伝統・文化」などをテーマとし、SDGsを意識した構成になっている。 (3)オリンピック・パラリンピックの取扱い 第1学年「友情、信頼」水泳荻野公介選手と瀬戸大也選手、「相互理解、寛容」パラスキー大日向邦子、「希望と勇気、克己と強い意志」パラカヌー瀬立モニカ選手、第2学年「希望と勇気、克己と強い意志」バレーボール竹下佳江選手、第3学年「希望と勇気、克己と強い意志」パラスキー三澤拓選手を取り上げている。 (4)いじめの取扱い 「いじめや差別のない社会について深く考える教材」を複数組み合わせたユニットを設定している。関係教材は9教材。とびらページに、いじめに立ち向かい、乗り越えていこうというメッセージを掲載している。 (5)別冊、付録等 巻末に各学年「都道府県にゆかりのある人物と、その言葉」が掲載されている。巻末に振り返りページがあり、単元ごと学期ごとに整理しやすい。	(1)スマートフォンやSNSの取扱い 第1学年「相互理解、寛容」を2回、第2学年「自主、自立、自由と責任」「節度、節制」、第3学年「遵法精神、公徳心」の内容項目で、3年間通して情報モラルについて考える教材を取り上げている。 (2)SDGs（持続可能な開発目標）の取扱い 「キャリア教育」「自然・環境」「健康・安全・防災」「国際理解」など、SDGsを意識した構成になっている。第3学年にコラム「持続可能な開発目標（SDGs）」について知ろうというページを設けている。 (3)オリンピック・パラリンピックの取扱い 第2学年「希望と勇気、克己と強い意志」パラテニス二条美穂選手を取り上げている。元テニスプレーヤーの言葉や大学駅伝なども扱っている。 (4)いじめの取扱い ユニット「いじめを許さない心について考える」を各学年設定し、教材1→「深めタイム」→教材2で構成している。クラスの人間関係の形成に役立つような話題を提供している。 (5)別冊、付録等 巻末にコラム「人と人との関係づくり」、「日本の世界遺産（郷土玩具、先駆者たち）」、「あなたへのメッセージ」、「学びの記録」、「人生目標年表を書こう」が掲載されている。	(1)スマートフォンやSNSの取扱い 第1学年「遵法精神、公徳心」第2学年「自主、自立、自由と責任」第3学年「相互理解、寛容」の内容項目で、3年間通して情報モラルについて考える教材を取り上げている。また「プラットホーム」というコラムでも3年間を通して情報モラルについて触れている。 (2)SDGs（持続可能な開発目標）の取扱い 「安全に生きる」「環境」「伝統・文化」「国際理解」などをテーマとし、SDGsを意識した構成になっている。 (3)オリンピック・パラリンピックの取扱い 第2学年「希望と勇気、克己と強い意志」柔道井上康生選手、「よりよく生きる喜び」パラテニス国枝慎吾選手、第3学年「希望と勇気、克己と強い意志」レスリング吉田沙保里選手を取り上げている。 (4)いじめの取扱い ユニット「いじめと向き合う」を設定し、間接的にいじめを扱うものを含めると3年間で17教材配置している。コラムを充実させ、いじめ防止に役立つような題材を用意している。 (5)別冊、付録等 「道徳ノート」という別冊がある。話し合いに対応できるように罫線がなく、メモや図が自由に書き込める。発問欄が空欄になった。	(1)スマートフォンやSNSの取扱い 第1学年「公正・公平・社会正義」「節度、節制」、第2学年「順法精神、公徳心」「節度、節制」、第3学年「相互理解、寛容」の内容項目で3年間通して情報モラルについて考える教材を取り上げている。また、関連情報を示す「クローズアップ」や「深めよう」など多くの場面で取り上げている。 (2)SDGs（持続可能な開発目標）の取扱い 「将来の私を考える」「地球と地域の未来のために」「誰もが暮らしやすい社会」「受け継ぎ伝える伝統文化」などをテーマとし、SDGsを意識した構成になっている。 (3)オリンピック・パラリンピックの取扱い 第1学年「国際理解、国際貢献」アジア初IOC委員嘉納治五郎、「よりよい学校生活、集団生活の充実」カーリング本橋麻里選手、第3学年「向上心、個性の伸長」レスリング伊調馨選手、「友情、信頼」水泳荻野公介選手と瀬戸大也選手、「希望と勇気、克己と強い意志」パラ陸上走り幅跳び谷真海選手を取り上げている。 (4)いじめの取扱 各学年「いじめをなくすために」というテーマを設け、「卒業文集最後の二行」などいじめ防止につながる教材として15教材位置付けている。 (5)別冊、付録等 巻末に学期ごとに記入する「学びの記録」のページがある。	(1)スマートフォンやSNSの取扱い 第1学年「自主、自立、自由と責任」「相互理解、寛容」、第2学年「礼儀」「公正・公平・社会正義」、第3学年「遵法精神、公徳心」の内容項目で3年間通して情報モラルについて考える教材を取り上げている。 (2)SDGs（持続可能な開発目標）の取扱い 「自然・環境」「国際理解」などをテーマとし、SDGsを意識した構成になっている。第2学年では「持続可能な社会を考える」、第3学年は「持続可能な社会の実現を目指して」という内容である。 (3)オリンピック・パラリンピックの取扱い 第1学年「希望と勇気、克己と強い意志」パラ水泳成田真由美選手、第2学年「感動、畏敬の念」マラソンのガブリエラ・アンデルセン選手、第3学年「家族愛、家庭生活の充実」ロードレース宮澤崇史選手を取り上げている。 (4)いじめの取扱い 「ヨシト」等の読み物教材やいじめに関する多様な資料を用意している。全学年巻末に「いじめを許さない私たちの心」を掲載している。 (5)別冊、付録等 「中学生道徳ノート」という内容項目順の別冊があり、資料と学習の記録を記入できる。本冊の巻末に「いじめ」「情報」「未来」に関するページがある。	(1)スマートフォンやSNSの取扱い 第1学年「公正・公平・社会正義」、第2学年「節度、節制」「相互理解、寛容」、第3学年「友情、信頼」の内容項目で3年間通して情報モラルについて考える教材を取り上げている。 (2)SDGs（持続可能な開発目標）の取扱い 「キャリア教育」「自然・環境」「国際理解」など、SDGsを意識した構成になっている。 (3)オリンピック・パラリンピックの取扱い 第1学年「自主、自立、自由と責任」パラテニス国枝慎吾選手、「相互理解、寛容」アジア初IOC委員嘉納治五郎、第2学年「我が国の伝統と文化の尊重、郷土を愛する態度」オリンピック招致貢献フレッド・和田勇、第3学年「よりよい学校生活、集団生活の充実」バレーボールマネージャー鈴木恵美子を取り上げている。 (4)いじめの取扱い 「いじめを許さない心」を育成し、生命尊重への学びを深めるよう「プロレスごっこ」等3年間で9教材を通して学べるようになっている。 (5)別冊、付録等 巻末に1年間を振り返って記載するページがあり、内容項目ごとに振り返ることができる。シンプルな作りにしている。